PRODUCT DESIGNの基礎

PD検定２級準拠

問題集

ダウンロード抜粋版

DL-190601

（公社）日本インダストリアルデザイナー協会

は じ め に

この問題集は、JIDAが実施しているプロダクトデザイン検定（PD検定）2級の標準テキストとして使われる「プロダクトデザインの基礎　ースマートな生活を実現する71の知識ー」の問題集として編集されています。

全150問、各項目2問ずつで、1問はPD検定2級の試験問題と類似したもの、もう1問は、項目解説のうちでポイントとなる内容を網羅した、少し難しい問題としました。

プロダクトデザインを勉強しようとこのテキストを手にした人は、デザインの技術のことよりも歴史から最近の事象まで、解説範囲の広いことに驚かれたに違いありません。

ここでは、デザインの現場で実践されている「創造的な問題解決法」や「デザイン手法」が、近年、ビジネスの世界で「デザイン思考」として活用されている実態も踏まえ、デザインを広く捉えてもらえるように努めました。

PD検定2級の試験では、テキストに記載されている基本的な事柄について、正しく理解しているかどうかを問う内容が中心です。

皆さんには、この「プロダクトデザインの基礎」で学び、問題集を通して理解を深め、一人でも多くの方がPD検定2級に合格し、これからの「知的な生活」や「創造的な活動」の基礎となることを期待しています。

2016年5月

プロダクトデザインの基礎　PD検定2級　問題集編集者

第1章　プロダクトデザインの背景　1 プロダクトデザインとは

問題　1−1　以下の文章の ［　　］ に当てはまる語句で、適切なものは次のうちどれか

プロダクトデザインとは、［ A ］ に関わるさまざまな生活用品・道具・機器・設備などの製品を、［ B ］ と使用環境の視点から構想し、［ C ］ という手段を通して具現化する活動である

① A:食生活　B:経営者　C:営業
② A:人間生活　B:経営者　C:営業
③ A:人間生活　B:使用者　C:産業
④ A:食生活　B:使用者　C:産業

問題 1−2　プロダクトデザインに関する文章で、不適切なものは次のうちどれか

① プロダクトデザインの分野は、インダストリアルデザイン、産業デザイン、工業デザインと称する場合もあり、かつては「口紅から機関車まで」と言われる広い分野にわたっている
② インダストリアルデザインは、20世紀に入り急速に発展したアメリカ産業界において、経済恐慌により生産第一から市場重視への転換をはかっていく中で生まれたデザイン分野
③ プロダクトデザインは、より良い人間生活環境のための製品を生み出す専門分野のひとつで、科学技術とともに新しい価値を創造するための絶え間ない革新が求められる
④ イギリスを中心に18世紀末から19世紀初め、手工業による少量生産から機械による大量生産にかわり、社会構造を大きく変えた。これをアーツ・アンド・クラフツ革命という

第2章　11　地域とデザイン

問題　11−1　以下の2枚の写真はそれぞれ地場産業を代表する製品である。それぞれの産地として適切なものは次のうちどれか

A

B

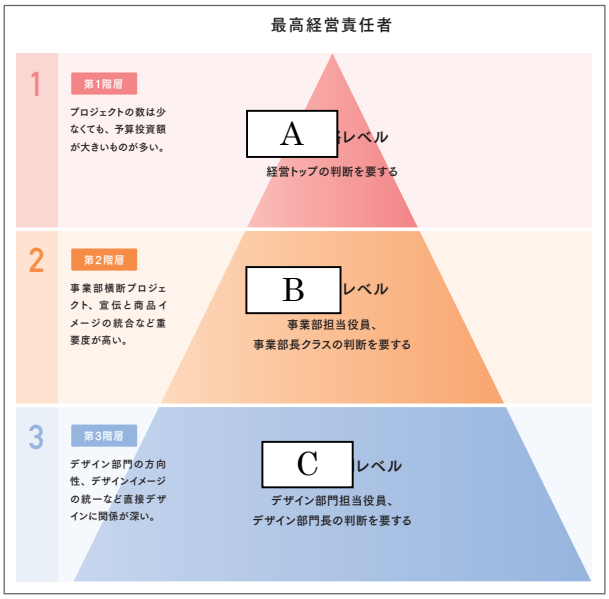
① A:岩手県盛岡市　B:新潟県三条市
② A:福井県鯖江市　B:北海道旭川市
③ A:長野県松本市　B:石川県輪島市
④ A:佐賀県有田市　B:福島県会津市

問題　11−2　　地域とデザインに関する文章で、不適切なものは次のうちどれか

① プロダクトデザイナーは、地域の産業を振興させる商品開発に参加し、産地の特徴を活かした商品をデザインし、ユーザにその良さを伝えることが求められている
② 地場産業には次の三つの要件がある。(1)地元資本による中小企業であること、(2)地域で産出するものを原料とすること、(3)地域で伝承し育ててきた技術と労働力を活用していること
③ JAPANブランド育成支援事業は、伝統産品や地域のすぐれた製品の販路を拡大することや地域経済を活性化して地域中小企業を盛んにするために、ブランド力の確立をめざす支援活動
④ 大量生産･大量販売や都市化により、地方の人口減少とともに地場産業の多くは発展からとり残された。地域に残されたリソースを生かした産業の活性化にデザインの活用が望まれている

問題15　デザインマネジメント　（第3章　プロダクトデザインとビジネス）

問題　15−1　　デザインマネジメント三階層に関する以下の図の ［　　］ に当てはまる語句で、適切なものは次のうちどれか



① A:経営戦略　B:経営戦術　C:デザイン部門
② A:経営戦術　B:開発計画　C:デザイン部門
③ A:開発計画　B:デザイン部門　C:販売
④ A:開発計画　B:デザイン部門　C:製造

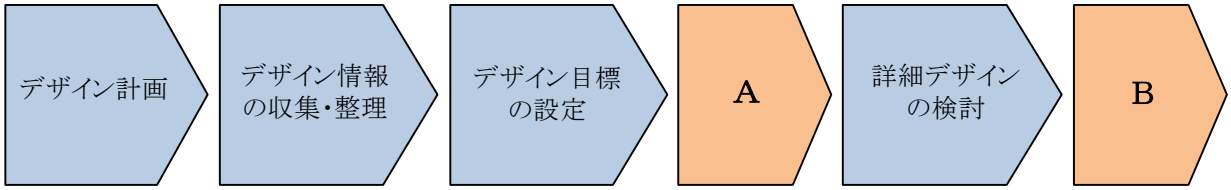
問題　15−2　　デザインマネジメントに関する文章で、不適切なものは次のうちどれか

① デザインの手法や考え方はモノづくりだけでなくコトづくりにも活用されるようになり、デザイン手法や考え方をどのように生かせるかが問われている
② コーポレートアイデンティティー(CI)とは企業の理念や事業内容、行動指針のことで、ステートメントやマーク･ロゴのデザインを含めデザイン部門トップが判断する
③ デザインマネジメントには、トップが判断すべき戦略的なものから開発やデザイン部門で決定する具体的なことまで、大きく三階層に分けられる
④ 「デザインと経営は不可分、デザインの力を効率的に生かす」という考え方やデザイン手法は経営戦略や戦術検討にも活用され、企業経営に不可欠なものとなった

20　デザインプロセスの概要　（第4章　デザインプロセス）

問題　20−1　　以下のフローチャートの A、B に当てはまる語句で、適切なものは次のうちどれか

●代表的なデザインプロセス



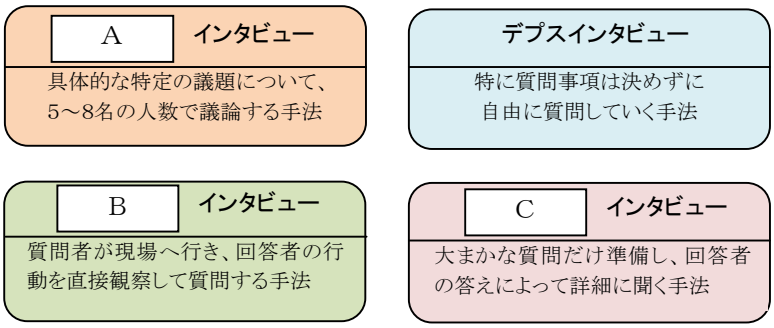
① A:プロモーション計画　　B:デザインフォロー
② A:プロモーション計画　　B:アドバンスデザイン
③ A:デザインコンセプトの立案　　B:デザインフォロー
④ A:デザインコンセプトの立案　　B:アドバンスデザイン

問題　20−2　　商品開発プロセスに対応するデザインプロセスとして、適切なものは次のうちどれか

① 商品開発に対応してデザイン計画
② 商品企画に対応してアドバンスドデザイン
③ 製造・営業に対応してデザインフォロー
④ 商品戦略に対応して商品デザイン戦術

第5章　ユーザ調査のための手法

問題　28−1　　4種類のインタビュー調査手法を説明した以下の表の □ に当てはまる語句で、適切なものは次のうちどれか



① A:グループ　　B:エスノグラフィック　　C:半構造化
② A:エスノグラフィック　　B:半構造化　　C:グループ
③ A:半構造化　　B:エスノグラフィック　　C:グループ
④ A:グループ　　B:半構造化　　C:エスノグラフィック

問題　28−2　以下の文章の ［　　］ に当てはまる語句で、適切なものは次のうちどれか

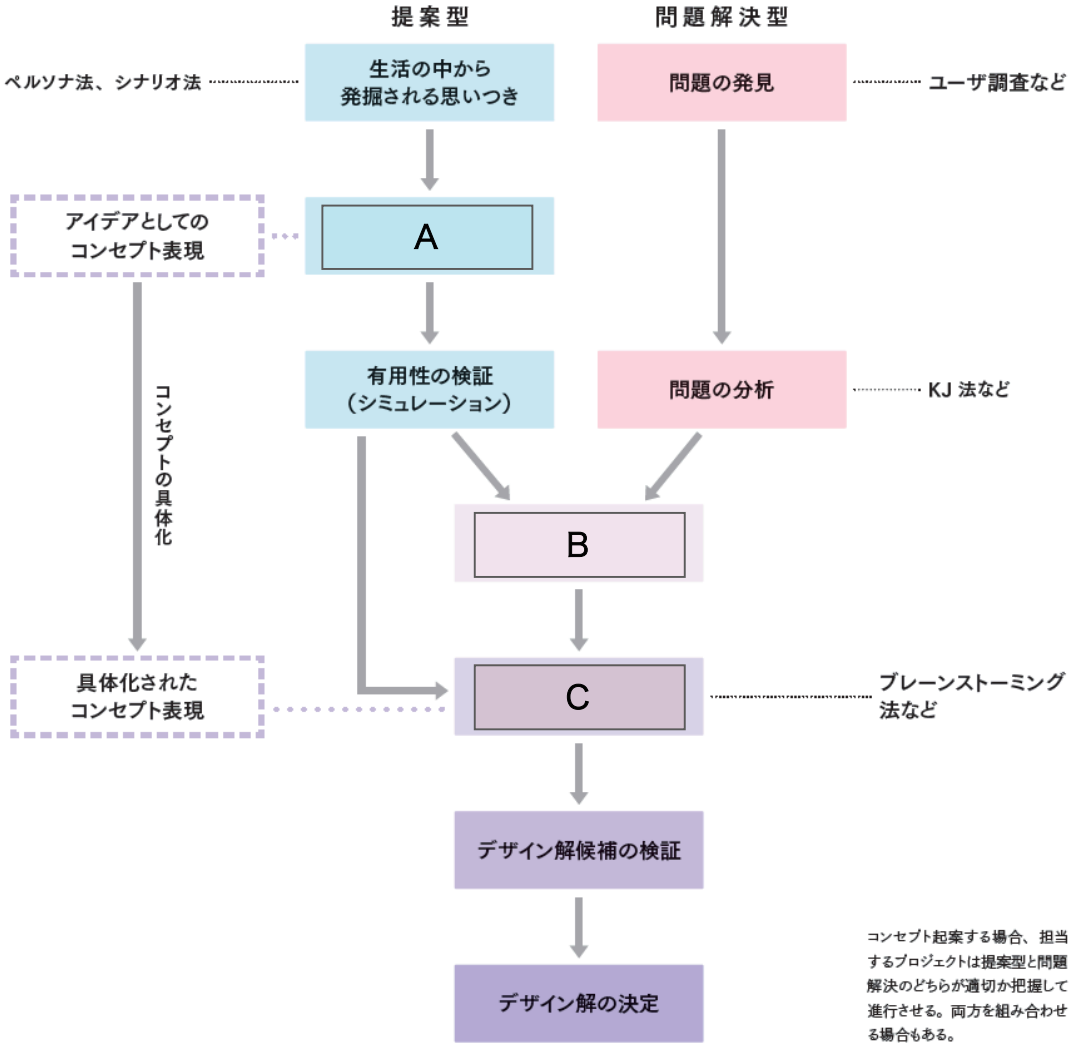
インタビュー調査はユーザを知るために実施する ［ A ］ なユーザ調査のひとつである。インタビューを通して被験者の考え方や本質的な要望を ［ B ］ も含めて引き出せることに特徴があるが、一人ずつインタビューを実施するので ［ C ］ がかかり、インタビューの進め方により調査結果が異なるのが欠点である

① A:定性的　B:人物像　C:バイアス
② A:定性的　B:背景情報　C:時間
③ A:定量的　B:人物像　C:時間
④ A:定量的　B:背景情報　C:バイアス

第6章　コンセプト作成のための手法

問題　32−1　以下のコンセプト起案法のプロセス図の ［　　］ にあてはまる語句で、適切なものは次のうちどれか

① A:思いつきの概念化　B:問題の優先度把握　C:デザイン解候補の発想
② A:思いつきの提案化　B:問題の優先度把握　C:デザイン解候補の選択
③ A:思いつきの概念化　B:問題の全体像把握　C:デザイン解候補の選択
④ A:思いつきの提案化　B:問題の全体像把握　C:デザイン解候補の発想



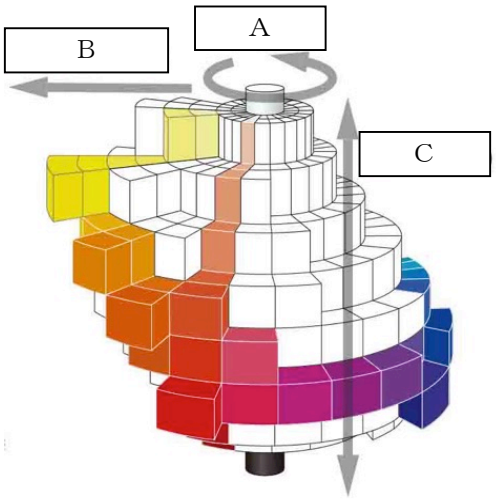
問題 32−2　コンセプト起案法に関する以下の文章の [　　] に当てはまる語句の組み合わせで、適切なものは次のうちどれか

[A] コンセプト起案法は、[B] 製品を提案するときに起案するための手法であり、[C] コンセプト起案法は、現実にある問題を解決するためのデザイン提案を行う手法である

① A: 提案型　B:これまでに存在しない　C:問題解決型
② A: 提案型　B:現在、存在する　C:問題解決型
③ A: 問題解決型　B:これまでに存在しない　C:提案型
④ A: 問題解決型　B:現在、存在する　C:提案型

第7章　視覚化のための手法

問題 47−1　以下のマンセル色立体の図で、色の三属性を示す [　　] に当てはまる語句として適切なものは次のうちどれか



① A:色相　B:彩度　C:明度
② A:色相　B:明度　C:彩度
③ A:彩度　B:色相　C:明度
④ A:彩度　B:明度　C:色相

問題 47−2　カラーに関する文章で、適切なものは次のうちどれか

① どのような人にも見やすく、情報がきちんと伝わるよう色使いに配慮したデザインをカラーユニバーサルデザインと言い、Web ページ・ATM・路線図などで使われている
② 光の色の混色は減法混色といい、R・G・B の三原色がすべて重なると白色になる。インキや絵具などの色材は加法混色といい、C・M・Y の三原色が重なると黒色になる
③ 可視光の波長は 780MHz～380MHzぐらいと言われ、その中でも「赤」は一番波長が短く遠くから識別しやすい。「信号機」や「止まれの標識」に利用されている
④ 染料は水に溶けず、樹脂塗料・インキ・絵具・陶磁器の着色などに利用される。顔料は水に溶け、糸・布・皮革・食品・透明樹脂の着色などに利用される

第8章　デザイン評価と科学的研究

問題　48−1　以下の文章の ［　　］ に当てはまるものは次のうちどれか。

デザイン評価は、［ A ］、ユーザ視点、［ B ］ の大きく3つに分けられる

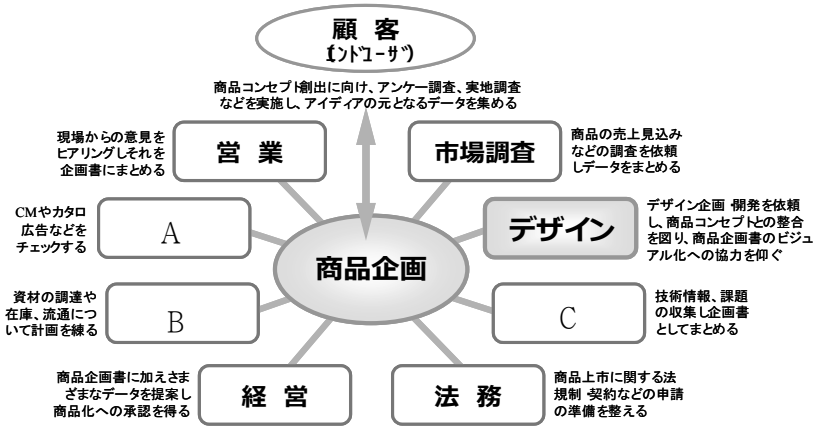
① A:ビジネス視点　B:技術視点
② A:ビジネス視点　B:生活者視点
③ A:イメージ視点　B:設計視点
④ A:イメージ視点　B:市場視点

問題　48−2　デザインの評価と研究に関する文章で、不適切なものは次のうちどれか

① ユーザビリティ評価とは、デザイン案がユーザ視点から見てどのようなレベルであるのか、商品などの使いやすさに関して評価する方法で、定量的な評価と定性的な方法がある
② デザイン評価は、提案されたデザイン案がデザイン戦略段階で設定した目標を達成できているか確認すること。ユーザの意見を主体とした客観評価と、専門家による主観評価に分けられる
③ ユーザが快適に使用できるようにするには、人間工学やユーザ工学の研究が重要である。また、魅力的な商品を生み出すために人間の印象を調べたりする、感性科学や心理学の研究も行われている
④ デザイナーにとって関連性が深いのはユーザ視点の評価で、評価項目として、操作性、有用性、魅力性を基本にしながら、安全性、満足度、新規性などがある

第9章　マーケティングとデザイン

問題　59−1　商品企画の仕事に関する以下の図の A、B、C に当てはまる語句で、適切なものは次のうちどれか。



商品企画の仕事

① A:販売促進　B:総務　C:マーケティング
② A:広告宣伝　B:物流　C:開発
③ A:広告宣伝　B:物流　C:マーケティング
④ A:販売促進　B:総務　C:開発

問題　59−2　　商品企画に関する文章で、不適切なものは次のうちどれか

① 商品企画とは、顧客のニーズやウォンツを探り、それにふさわしい商品コンセプト・実現する技術・収益性などを包括的にプロデュースし商品化する活動である
② 商品コンセプトは商品企画の中心的な位置にあり、対象ユーザ、デザインイメージ、シーンスケッチ、キャッチコピーなどをまとめた資料のこと
③ 顧客を大別すると、企業と一般消費者に分けられる。他の企業に販売する設備や材料などを生産財、一般消費者に販売する商品を消費財と呼ぶ
④ コンセプトマップとは、ブレーンストーミングなどであがった言葉やフレーズなど、概念同士の関係を図で表したもの。マップから疑問点・問題点・興味などが明らかになる

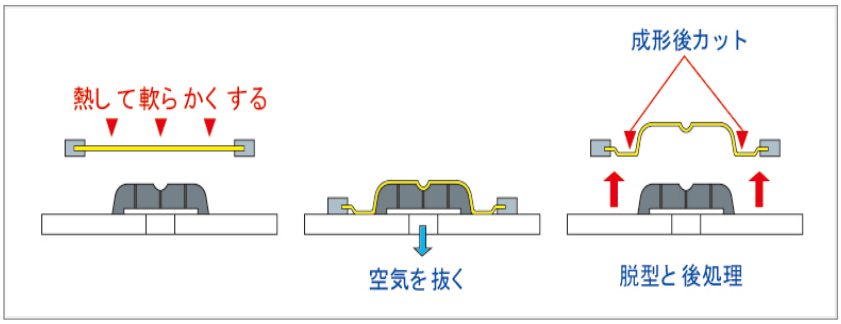
第10章　技術とデザイン

問題　66−1　　プラスチックの成形に関する文章で、不適切なものは次のうちどれか

① ブローモールドは、内厚が均一にならない、後加工が必要となるなどマイナス面はあるが、卵のパッケージや食品包装用のトレイなどに多く使われる
② 原材料はペレット・粉体・粘性のある液体・細粒など多様であり、融点が低いため様々な成形加工が可能である
③ ペットボトルは、スクリュー部分をプリフォームしたのち中空ボトル部分を一体でブロー成形する、インジェクションブロー成形法により製造される
④ 電気製品・日用雑貨品・自動車の内外装に至るまで、インジェクションモールドは最も多く利用されるプラスチック成形の代表的手法である

問題　66−2　　以下の図が示すプラスチックの成形方法で、適切なものは次のうちどれか

① インジェクションモールド
② ブローモールド
③ バキュームモールド
④ プレスモールド



解答用紙

1　プロダクトデザインとは

問 1−1	問 1−2

11　地域とデザイン

問 11−1	問 11−2

15　デザインマネジメント

問 15−1	問 15−2

20　デザインプロセスの概要

問 20−1	問 20−2

28　インタビュー調査

問 28−1	問 28−2

32　コンセプト起案法

問 32−1	問 32−2

47　カラー

問 47−1	問 47−2

48　デザイン評価と科学的研究の概要

問 48−1	問 48−2

59　商品企画の概要

問 59−1	問 59−2

66　プラスチックの成形と加工

問 66−1	問 66−2

正　答　表

1−1	1−2	11−1	11−2	15−1	15−2	20−1	20−2	28−1	28−2	32−1	32−2	47−1	47−2	48−1	48−2	59−1	59−2	66−1	66−2
3	4	1	2	1	2	3	3	1	2	4	1	1	1	1	2	2	2	1	3

PRODUCT DESIGNの基礎
PD検定2級準拠問題集　ダウンロード抜粋版　DL-160824
発行 2016年８月24日　初版
　　2016年９月14日　訂正版
編集・著作
公益社団法人 日本インダストリアルデザイナー協会　教育委員会
　　PRODUCT DESIGNの基礎　編集委員会
発行・発売　株式会社ボーンデジタル
〒102-0074
東京都千代田区九段南一丁目５番５号 Daiwa 九段ビル
電話 03-5215-8665（検定事務局）
メール kentei@borndigital.jp
URL http://pdken.jida.or.jp/

●本書の内容を無断で転載・譲渡・複製することを禁じます。
●その目的を問わず、不特定多数がアクセス出来る場所に置いて使用することはできません